

## 「主論文の概要」の指針

主論文の概要は、研究科委員会に学位申請を行なう際に提出する。当該委員会の1週間前までに、理学研究科教務学生係に書式を整えて提出する。

1) この書類の基本的な考え方として、主論文の内容に関する価値判断は含めず、客観的な記述を述べるものとする。そのために、主観的な表現は避ける。また、用語は理学者一般に理解できるものを用い、英語や専門用語は可能な限り避けて、平易な表現を用いる。また、最高学府に相応しい品格ある表現を用いる。

(避けるべき表現の例)

- ・ 「初めて (何かを) 行なった」 初めてかどうかは、当時者の主観と価値判断に依存するので、単に「(何かを) 行なった」と記述する。
- ・ 「(何かの遂行に) 成功した」 成功か失敗かは、当時者の主観と価値判断に依存するので、単に「(何かを) 遂行した」と記述する。

2) 全体の字数は、1200字程度を目安とする。

2-1) 最初の段落(3行程度)で、理学の視点から主論文の背景を説明する。

2-2) 次の段落(4行程度)で、物理学の視点から主論文の背景をさらに詳しく説明し、主論文の研究目的等を解説する。

2-3) 次の2、3段落(1段落5-10行程度)で、研究内容と結果を具体的に説明する。

2-4) 最終段落(4行程度)で、主要な結論を要約する。

## 「論文審査の結果の要旨」

「論文審査の結果の要旨」は、学位論文申請後の研究科委員会に提出して審査報告を行うために、当該委員会の1週間前までに理学研究科教務学生係に書式を整えて提出する。審査委員会において、主論文・副論文・参考論文を審査した結果を要約したものであり、主論文の概要とは異なり、価値判断を含めて審査の内容の全体をまとめる。

実際には、「主論文の概要」を基礎として、必要に応じて研究内容についての評価を述べる。「初めて」「成功した」他の表現も含めて、適切な評価・価値判断を行なう。

本書類の最終段落において、審査の総合的な評価を述べて、申請者が学位を与えられるに相応しいことを結論する。また、参考論文がある場合には、その意義についても必ず簡潔に評価を与える。